

平成27年度 第六回宜野湾市市民協働推進協議会 会議録（要旨）

日時：平成28年2月16日（火）午後7時00分～午後9時00分

場所：宜野湾市役所 第三常任委員会室

出席：岩田委員長、宮城政一副委員長、稲垣暁委員、新城清子委員、島袋盛子委員、
宮城美由委員、中本岩郎委員、国吉孝博委員
事務局（3名）

欠席：前田有得委員、宮道喜一委員

開会

～事務局より第五回協議会の振り返りと重点施策一覧終戦確認
について説明～

委員 前は、相関関係図が分かりにくいということで議論したが、4つの柱が網羅されて重点的に取組める仕組みが表現され前回よりも分かりやすくなっている。

委員 「宜野湾市の人口と世帯数」は4ページにあった方が「将来人口推移」との関連で見やすくないか。

事務局 コラムでは現在の協働の実態が分かるような、数値を紹介していきますという文章を入れ、①、②とシリーズで繋げていく方がいいのでしょうか。

委員 タイトルの上に共通のコラムの名前を書いてあげ、それを連番にする。デザイン的にコラムと分りやすくする。「協働豆知識①」などのように。

委員 コラムに少しコメントもあると違ってくる。

委員 実施計画はカラーか。

事務局 ウェブ上はカラーだが、配付は相関関係図のみカラーを考えている。

委員 6ページの「施策指針と協働の関係図」と相関関係図の色が同じだと分りやすい。

委員 相関関係図の2つのイラストは協働のイメージとは結び付きにくいので、差し替えるか、削除した方がいいのではないか。

委員 6ページの「協働の主体と市民の関係図」は、主体という言葉が続きすぎないか。

事務局 各主体同士が積極的にという文言に変えます。

委員 体裁について「計画の実施期間の位置」が24ページより、4ページにあった方がじっくりくる。

委員 数年たった時にいつからいつまでの計画なのか確認したいときには前にあった方がいい。5年間の経過と理解したうえで、入っていくと思う。

委員 前に持ってくるなら指針の内容を説明し、実施期間を示した後に施策体系図に入った方がいい、計画の位置づけの後にくると、協働で目指すまちの姿がボケてしまう。

委員 表紙のタイトルの下に実施期間を入れることはどうか。

事務局 後半の議題で目標を話し合うので、目標を含めてどこに差し込むのかは最後でどうか。表紙に年度を入れるのは分かりやすくするために明確に示しているのも多いので、同じように示していきたい。

委員 障害者福祉計画などでは、総論などにはルビを入れるが、目指すまちの姿のどにいれるかは検討してもらえるといい。

事務局 3月29日の第7回協議会の前に庁内で計画（案）を検討するが、予定としては、

庁内で協働の事例や場面が比較的が多い部署から係長に担当者として集まっていただき、29の施策がそれぞれの課でもっている計画との関連性、役割分担の必要性について横で連携して話し合いができる庁内検討を予定している。「協働推進員の構築」と「協働事例集の作成」の施策は庁内の研修や推進制度など全庁に関わるので意見をもらう予定である。そして第7回協議会に持ち帰れるように進めていきたい。

～事務局より議題2「目指すべき目標の設定」の
ワークショップについて説明～

～2グループに分かれて目標の設定についてワークショップ～

ワークショップで出た主な意見

- ・ 県や国でも「協働」を意識したキャンペーンや政策があったらいい、そうすることで協働の事例が増えるとイメージしやすい。
- ・ 5年後には人材バンクの作成とソーシャルの活用で繋がる。
- ・ 市・社協・自治会の協働の中に、自治会以外も巻き込んでいく。(花いっぱい運動等計画中)
- ・ 各中学校区に場が設定されていて、地域会議に必ず学校教員が入り情報交換する場づくりが必要。
- ・ 5年後中間支援機能ができた。活動の拠点・場所ができた。支援する機能があってそこに人が集まってくる。
- ・ 協働を進める仕組みができ、情報の一元化であったり、そこからいろんな人たちと繋がる仕組みができることで、環境づくりの仕組みが出ることと、分野を超えた繋がりができる。行政だと課を越えた横のつながりで支援ができる事を目標にしたい。「協働」をみんなに知ってもらうことも大事。
- ・ 宜野湾に住んで良かったという満足度。調査して出た課題を協働で解決して5年後に満足度がアップすればいい。具体的には5年以内に普天間飛行場が撤去されて、平和なまち、住んで良かったというまちになって欲しい。
- ・ 花をいける、通りごとに花があり、どこに行っても花があるまち、花が絶えないという印象を与えられるといい。
- ・ 最初の5年間は体制(基盤)作りだと思う。まずはこの5カ年計画ができることが仕組みづくりになる。「協働」のイメージが広がる成功モデルができるといい。この5年は土台づくり
- ・ 見えない人が沢山いる。見えないから手の差しのべようがない。見えるところに出ていただけのような社会をつくれれば、手を差しのべられる。そういうスキームができたらいいい。

事務局 認知されるような土台(土壌)を作って、繋がる場、充実させて繋がって人が活躍して事例が増えて、満足度のアップで、理想のまちの姿になればいいなどの繋がりはあるのでキーワードを拾って最後の協議会に提示します。

閉会